

# 農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

## 1 いもち病

- (1) 収穫期の巡回調査では、穂いもちの発生圃場率・発生程度とも平年より高く、平成25年並の発生となった（図1）。
- (2) 全県で広く発生しており、地域別では北上以南、気仙で発生程度の高い圃場がみられた（図2）。

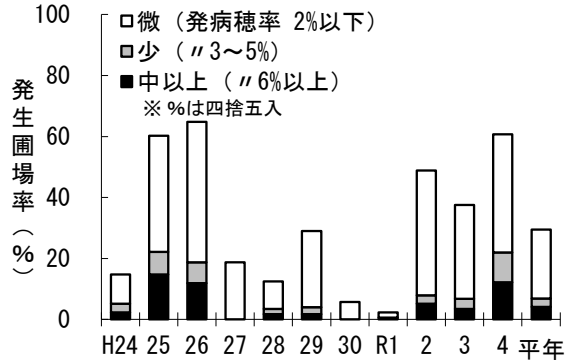


図1 穂いもちの発生圃場率の年次推移（収穫期）

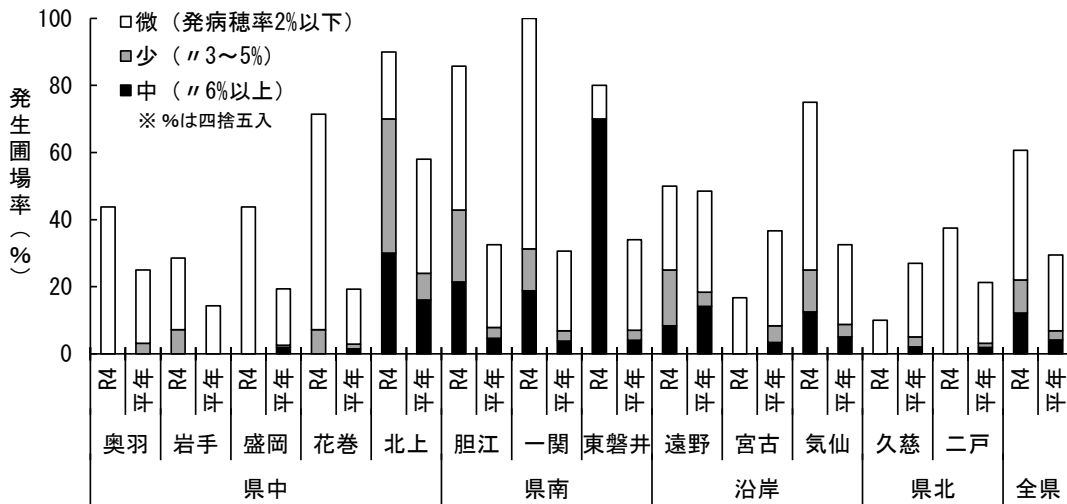


図2 穂いもちの地域別発生圃場率（収穫期）

## 2 紋枯病（疑似紋枯病を含む）

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は81.5%（平年77.5%）で、平年並だった（図3）。

## 3 ごま葉枯病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は6.9%（平年4.2%）で、平年よりやや高く（図4）、特に沿岸地域で多く見られた。

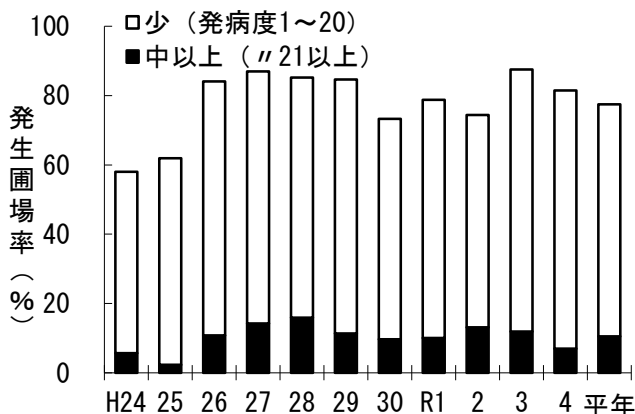


図3 紋枯病の発生圃場率の年次推移（収穫期）

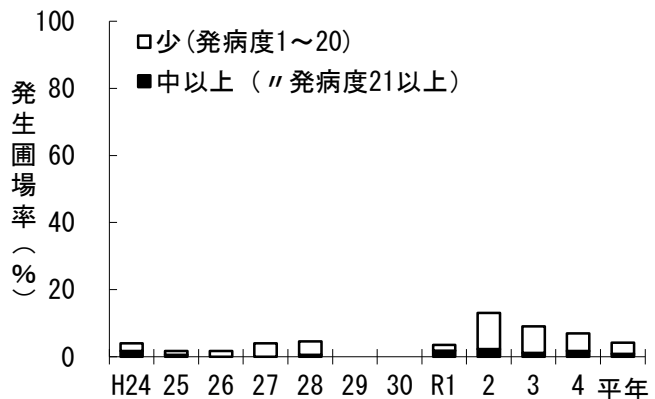


図4 ごま葉枯病の発生圃場率の年次推移（収穫期）

#### 4 稲こうじ病

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は6.9%（平成3.9%）で、平成よりやや高かった（図5）。

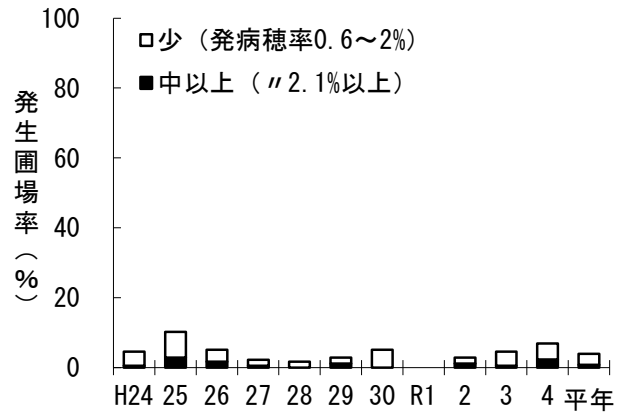


図5 稲こうじ病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

#### 5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、アカスジカスミカメの発生が8月第4半旬と9月第1半旬で、平成より高かった（図6）。
- (2) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は46.0%（平成37.1%）で、平成よりやや高かったが、発生程度中以上の圃場率は18.4%（平成16.3%）で、平成並だった（図7）。
- (3) 山間部の一部の圃場で、チャイロナガカメムシの多発生が確認された。

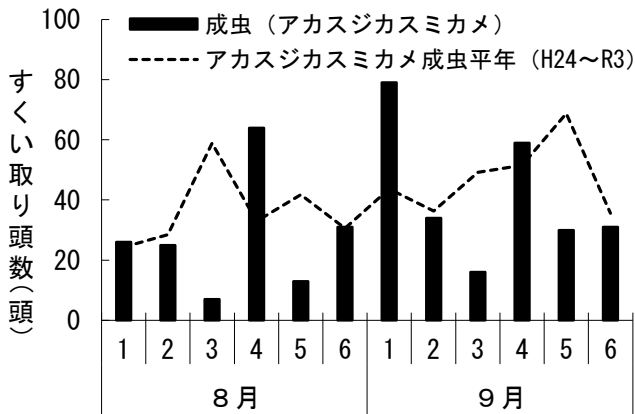


図6 基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるアカスジカスミカメ成虫の時期別推移（すくい取り、往復20回振）

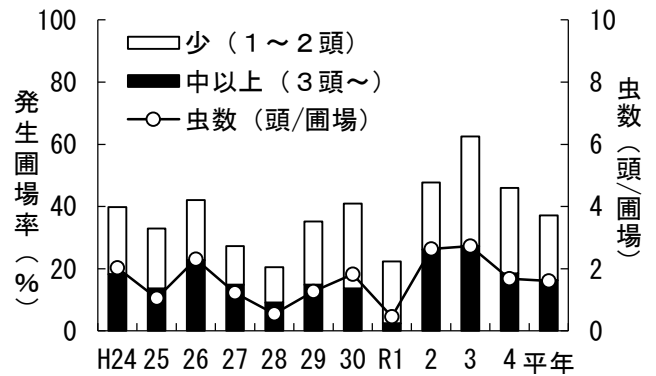


図7 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

#### 6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は28.7%（平成31.5%）で、平成並だった（図8左）。

(2) ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は67.8%（平成67.0%）で、平成並だった（図8右）。

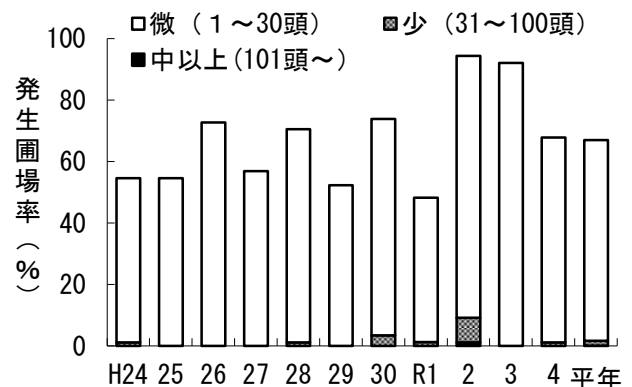
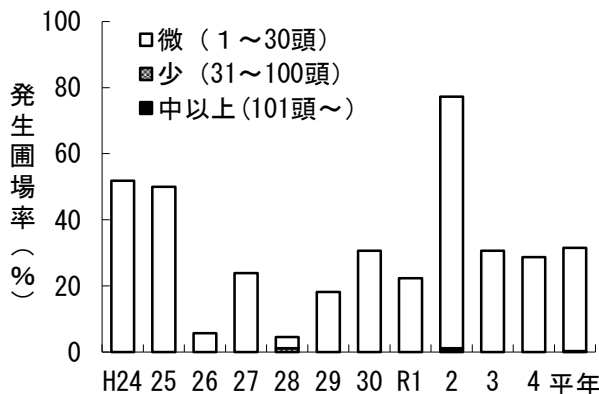


図8 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

(左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振)

## 7 ツマグロヨコバイ

(1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、確認されなかった。

## 8 イネキモグリバエ (イネカラバエ)

(1) 収穫期の巡回調査では、一部の圃場で被害穂が見られ、発生圃場率は4.0% (平年1.5%) で、平年より高かった (図9)。

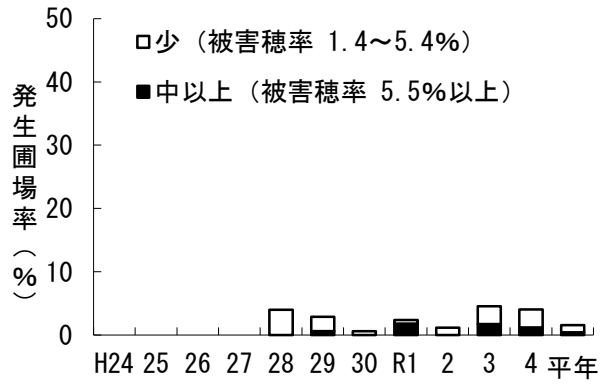


図9 イネキモグリバエの発生圃場率の年次推移 (収穫期)

# 農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

## 1 斑点落葉病

(1) 9月後半の巡回調査のふじでの発生園地率は64.5%（平成70.3%）で平成並、発生程度中以上の園地率は9.7%（平成23.9%）で平成よりやや低かった（図1）。また、発病度は平成よりやや低かった（図2）。

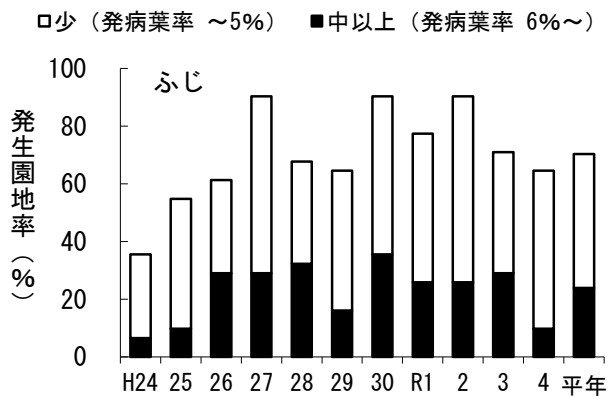


図1 斑点落葉病の発生園地率の推移（ふじ、9月後半、徒長枝全葉）

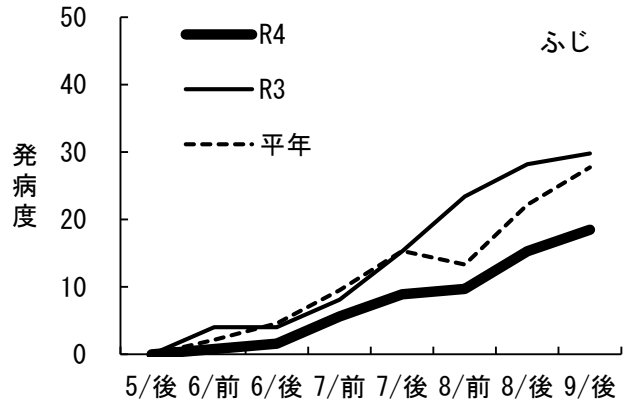


図2 斑点落葉病の時期別発生度の推移（ふじ）  
※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、  
A: 発病葉率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

## 2 褐斑病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は51.6%（平成41.6%）、発生程度中以上の園地率は22.6%（平成12.6%）で、ともに平成よりやや高かった（図3）。

(2) 9月の発病度は平成よりやや高く推移した（図4）。

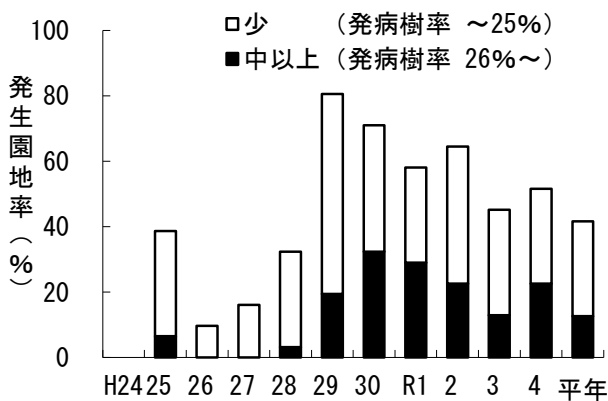


図3 褐斑病の発生園地率の推移（9月後半）

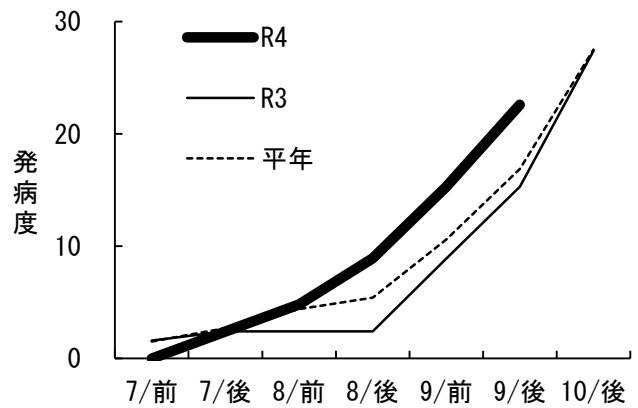


図4 褐斑病の時期別発生度の推移  
※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、  
A: 発病樹率76%~、B: 51~75%、C: 26~50%、D: 1~25%の園地数

## 3 黒星病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、徒長枝葉は12.9%（平成7.7%）、果実は9.7%（平成5.2%）で、ともに平成よりやや高かった（図5）。

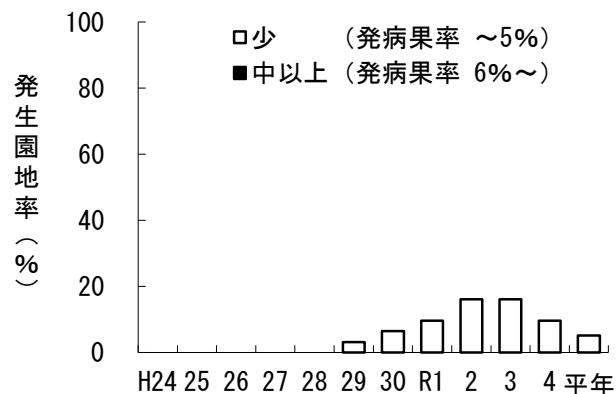
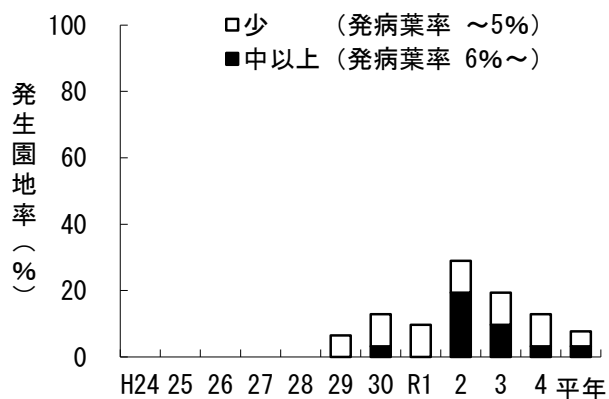


図5 黒星病の発生園地率の推移（9月後半、左：徒長枝葉、右：果実）

#### 4 果実病害

- (1) 輪紋病：9月後半の巡回調査での発生園地率は16.1%（平年10.0%）で、平年より高かった（図6）。
- (2) 炭疽病：9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5%（平年9.7%）で、平年並だった（図7）。
- (3) すず点病：9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年4.5%）で、平年並だった（図8）。
- (4) すず斑病：9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年0.3%、図9）。
- (5) 黒点病：9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年8.4%、図10）。

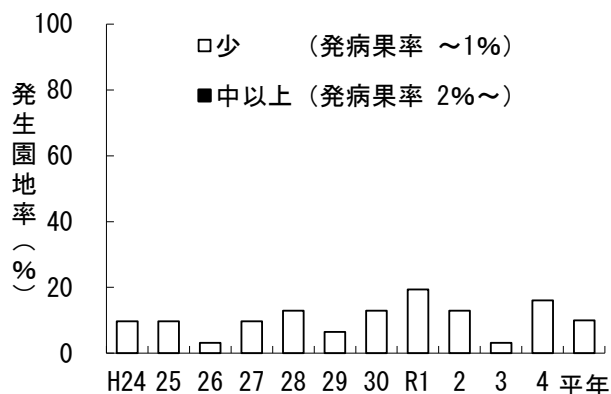


図6 輪紋病の発生園地率の推移（9月後半）

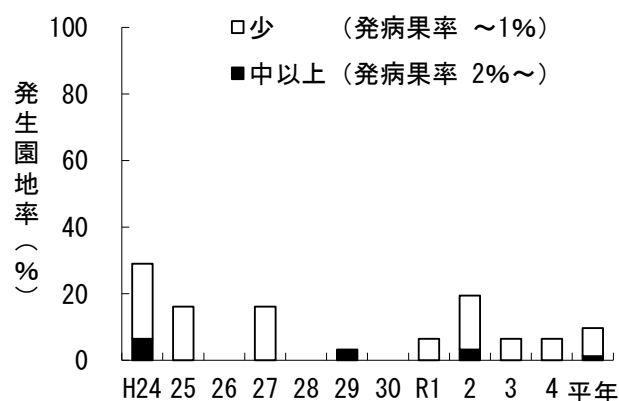


図7 炭疽病の発生園地率の推移（9月後半）

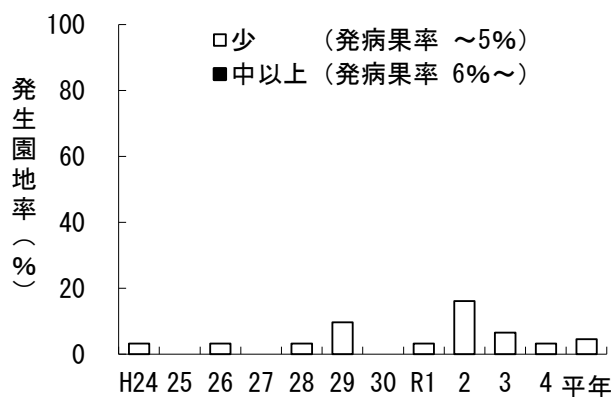


図8 すず点病の発生園地率の推移（9月後半）

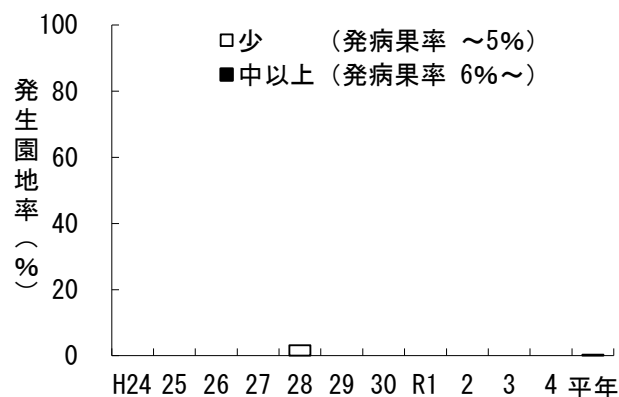


図9 すず斑病の発生園地率の推移（9月後半）

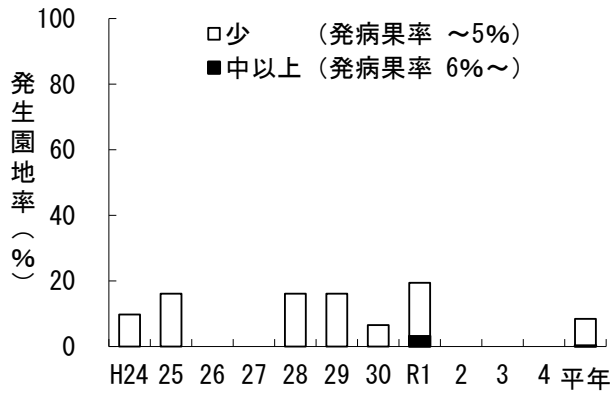


図10 黒点病の発生園地率の推移（9月後半）

## 5 ハダニ類

- (1) 9月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、ナミハダニは6.5%（平均17.4%）で平均より低く、リンゴハダニは発生が確認されなかった（平均6.1%、図11）。
- (2) 目通りの時期別発生度は、ナミハダニは6月後半から8月前半までは平均並に推移し、8月後半からは平均より低く推移している（図12）。また、リンゴハダニは6月後半から8月後半まで平均より高く推移し、9月後半から平均より低く推移している（図13）。

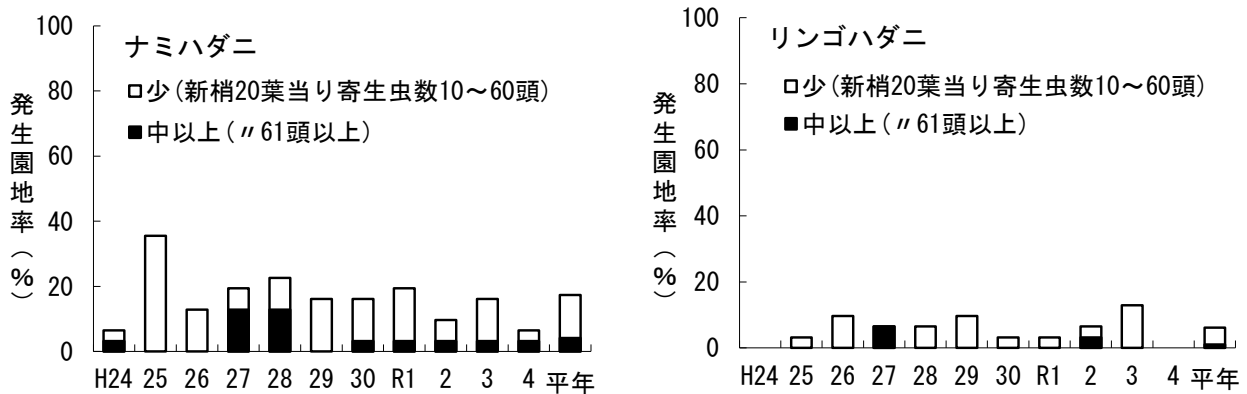


図11 ハダニ類の発生園地率の年次推移（9月後半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）  
（10頭未満/新梢20葉（10樹）は発生無しの扱い）

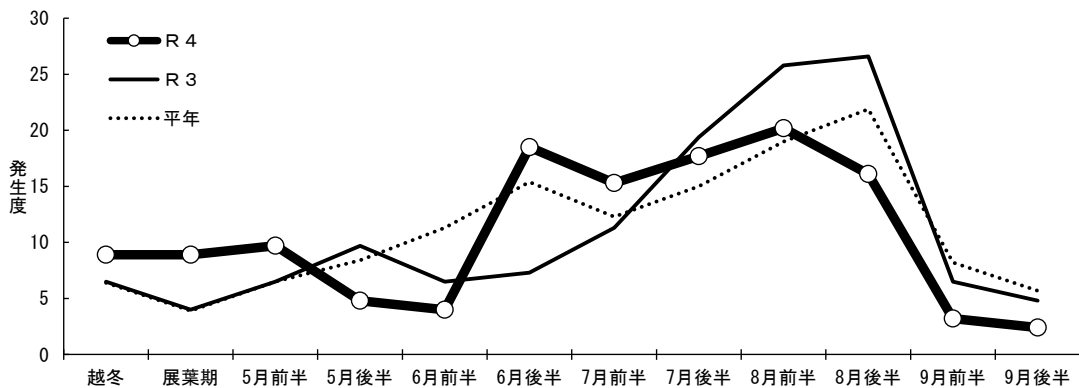


図12 ナミハダニの時期別発生度の推移（目通り）

※発生度：（4甚+3多+2中+少）×100/（調査圃場数×4）

（発生程度の評価基準は時期によって異なる）

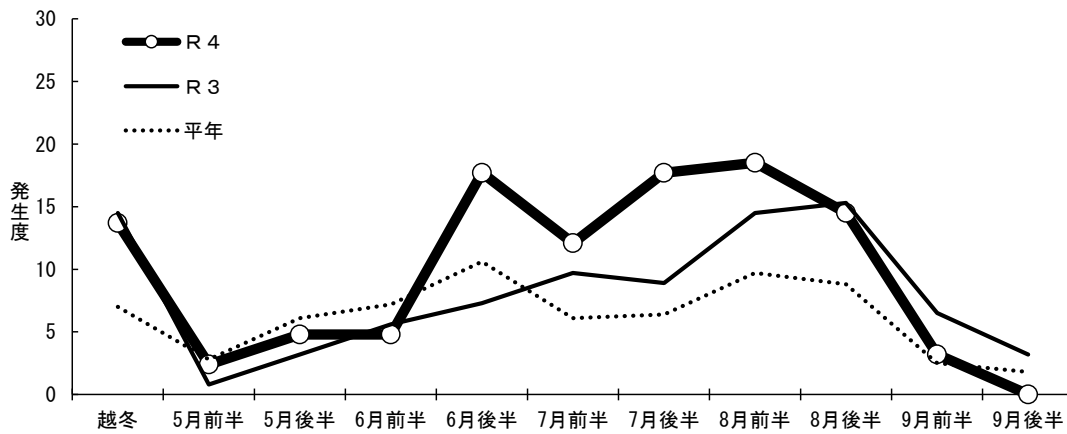


図13 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)

※発生度：(4 甚+3 多+2 中+少) ×100/ (調査圃場数×4)

(発生程度の評価基準は時期によって異なる)

## 6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった (平年 13.2%、図14)。

## 7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生圃地率は3.2% (平年 6.4%) で、平年よりやや低かった (図15)。

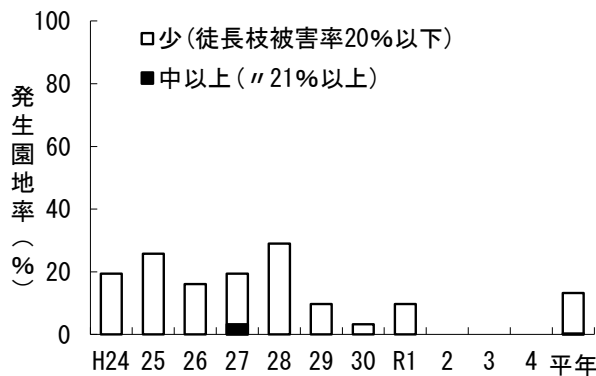


図14 ギンモンハモグリガの発生圃地率の年次推移 (9月後半)

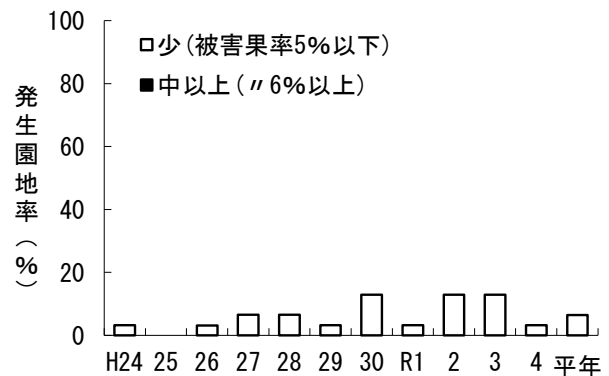


図15 シンクイムシ類による被害果発生圃地率の年次推移 (9月後半)

## 8 果樹カメムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生圃地率は38.7% (平年 15.5%) で、平年よりやや高かった (図16)。

(2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、盛岡市川目では、8月第6半旬に、今年に入って最も多く誘殺され、北上市更木では、8月下旬以降、誘殺されなかった。年間誘殺頭数は、両園地ともに平年より少なかった (図17)。

(3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、基準圃、盛岡市川目では、8月下旬以降、5頭未満の誘殺があったが、北上市更木では誘殺されなかった。年間誘殺頭数は、いずれの園地も平年より少なかった (図18)。

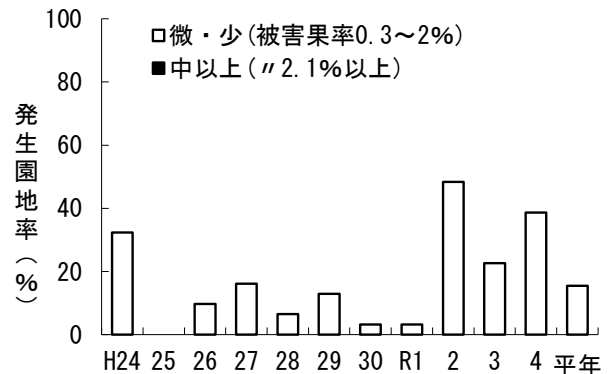


図16 果樹カメムシ類による被害果発生圃地率の年次推移 (9月後半)

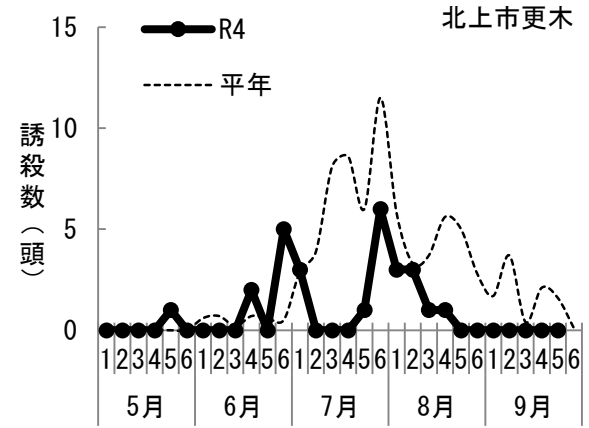
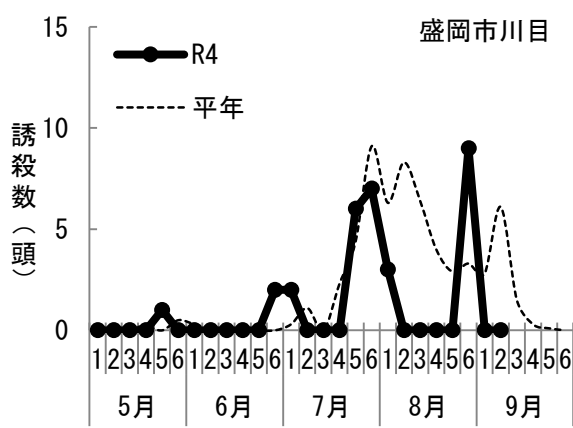
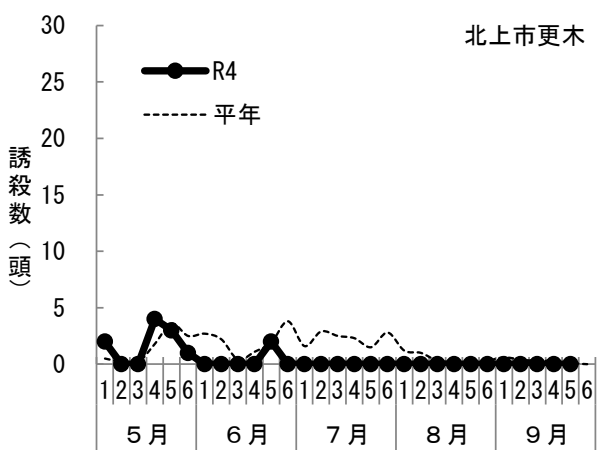
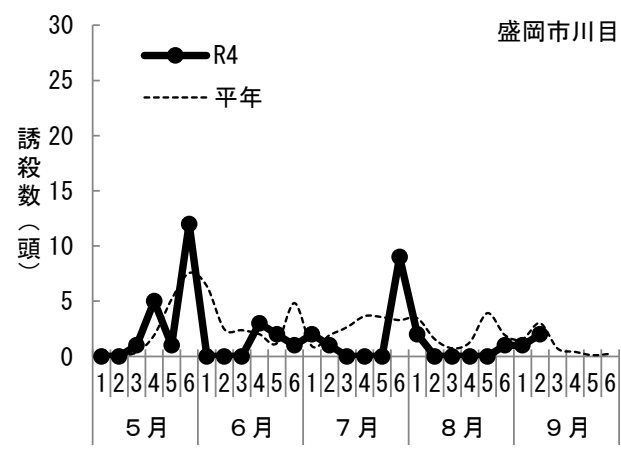
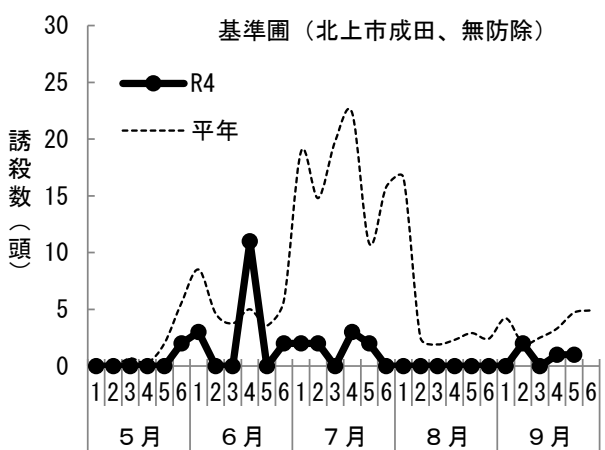


図17 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)





# 農作物病害虫発生現況情報（9月）きゅうり編

## 1 ベと病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は66.7%（平年70.3%）で、平年並であった（図1）。

## 2 うどんこ病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年60.8%、図2）。

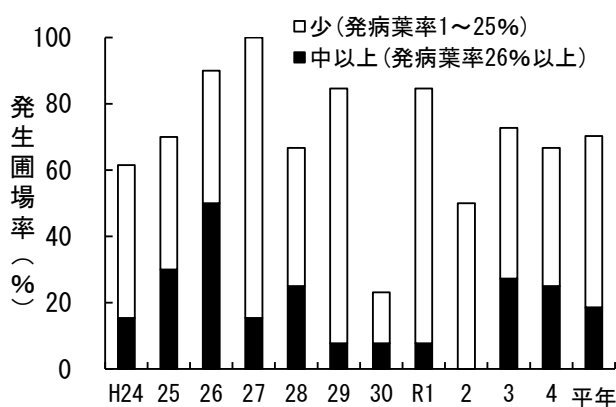


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

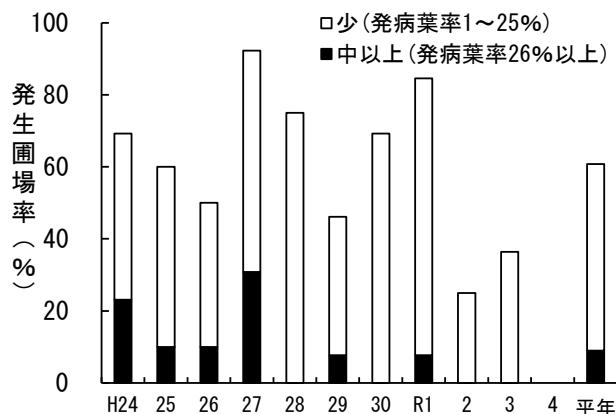


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

## 3 褐斑病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年69.8%）、発生程度の高い圃場率は66.7%（平年44.0%）で、いずれも平年より高かった（図3）。

## 4 炭疽病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年82.7%）、発生程度の高い圃場率は58.3%（平年10.8%）で、いずれも平年より高かった（図4）。

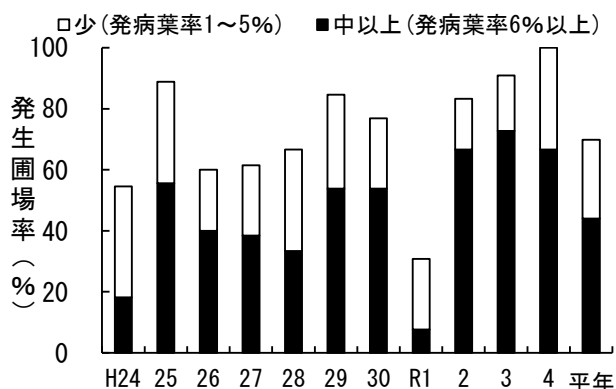


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

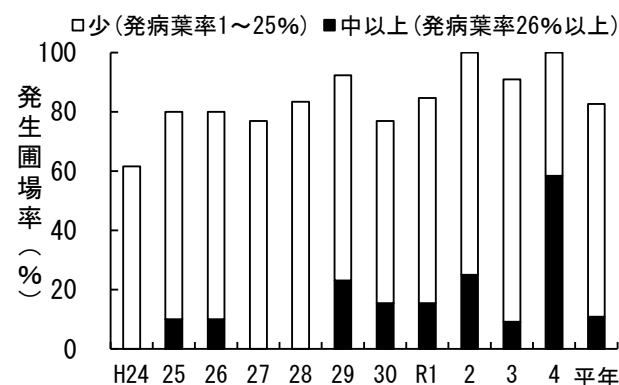


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

## 5 斑点細菌病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年18.5%）で、平年より高かった（図5）。

## 6 黒星病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった（平年17.6%、図6）。

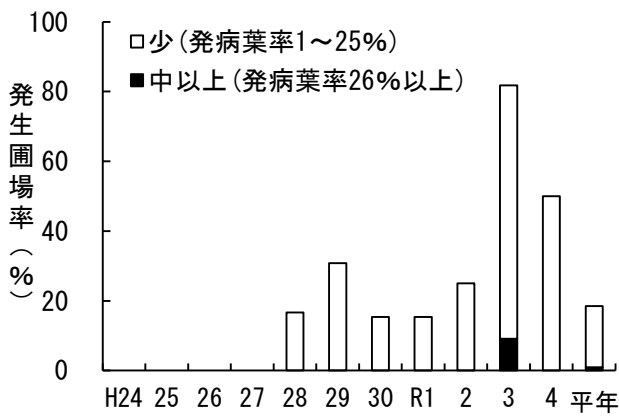


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

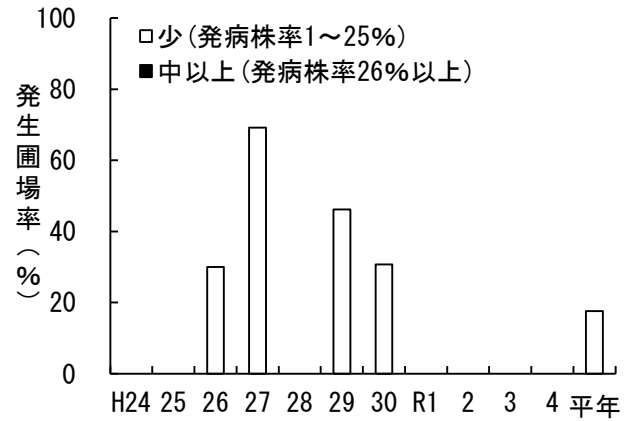


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

## 7 ワタアブラムシ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は25.0%（平年16.6%）で、平年よりやや高かった（図7）。

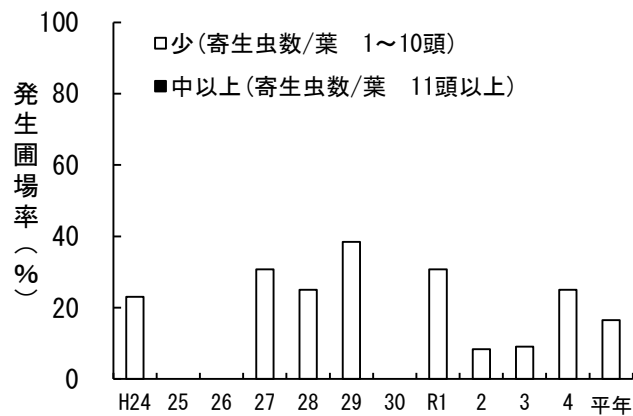


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

# 農作物病害虫発生現況情報（9月）キャベツ編

## 1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、9月第4半旬に増加した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 9月中旬の巡回調査では、産卵は確認されず（平年5.5%、図4）、幼虫も確認されなかった（平年31.4%、図5）。

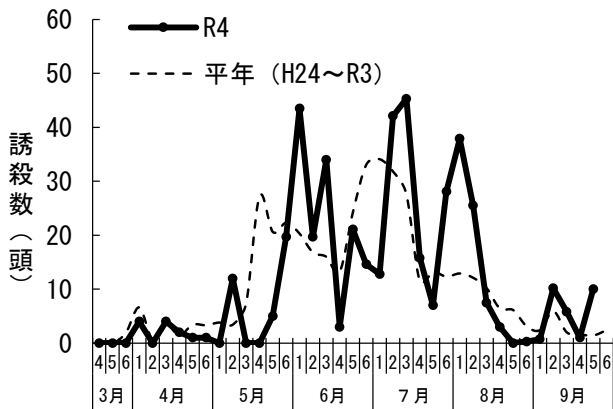


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

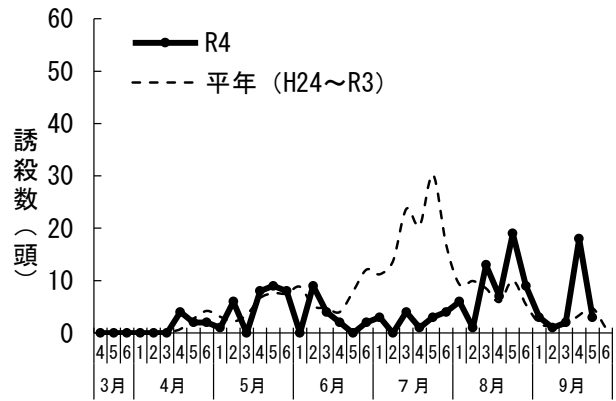


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

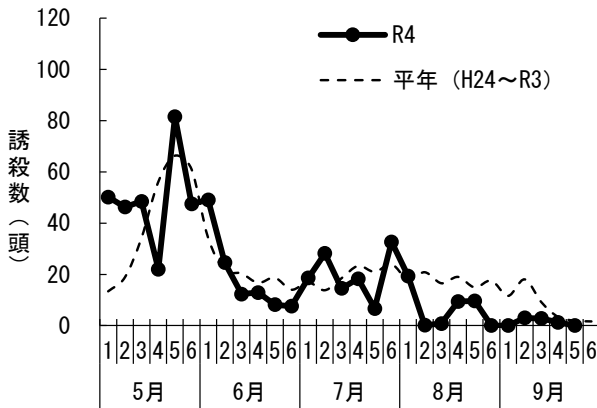


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

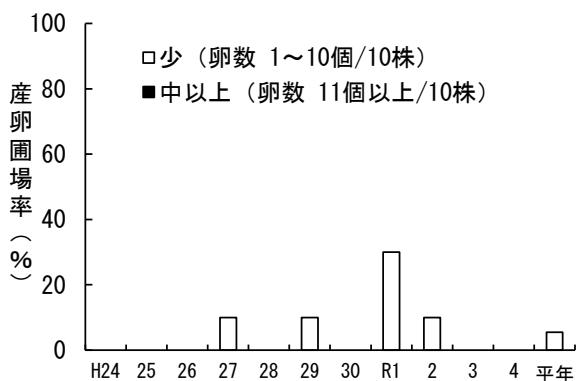


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

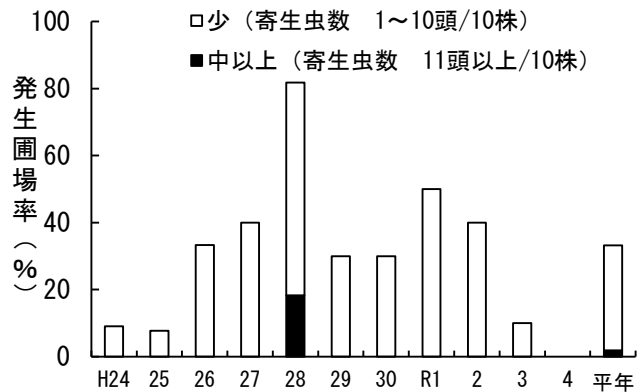


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（9月中旬）

## 2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月第4半旬に確認された（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月第4半旬にピークが見られた（図8）。
- (4) 9月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は16.6%（平年18.4%）で、平年並であった（図9）。

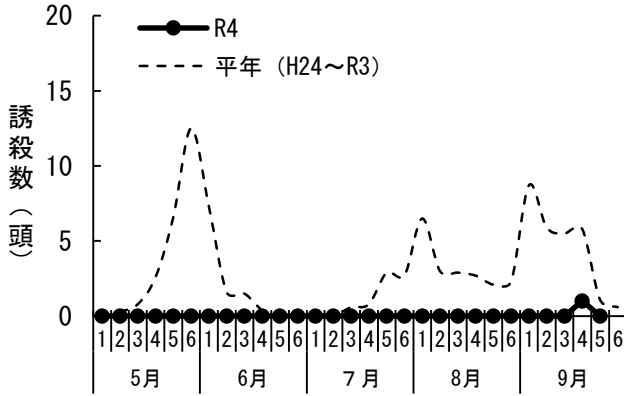


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

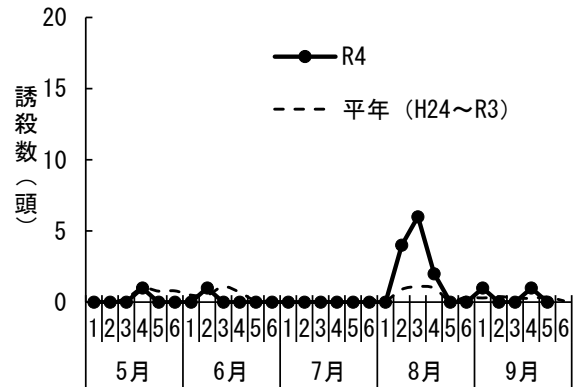


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

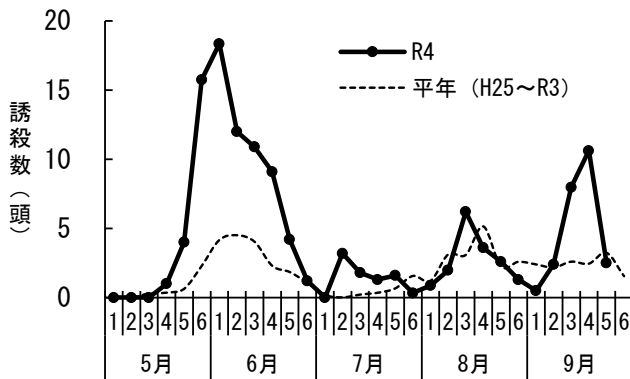


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

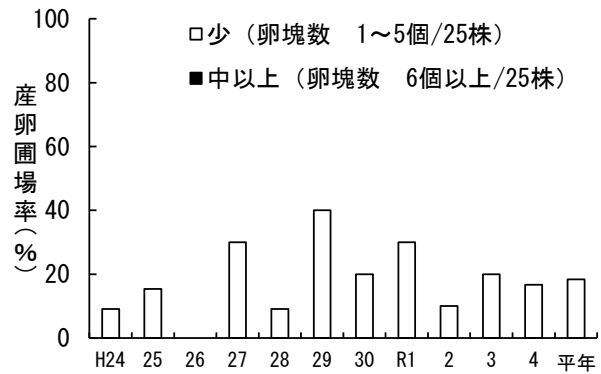


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

# 農作物病害虫発生現況情報（9月） ねぎ編

## 1 さび病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.0%（平年27.2%）、被害程度中以上の圃場率は20.0%（平年15.7%）であり、いずれも平年並であった（図1）。

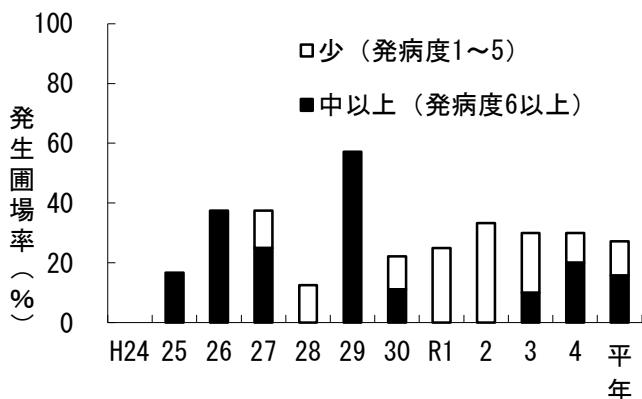


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（9月下旬）

## 2 べと病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年0%、図省略）。

## 3 黒斑病・葉枯病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年85.4%）であり、平年より高かった（図2）。

(2) 一部の圃場では、葉枯病の黄色斑紋病斑も確認されている。

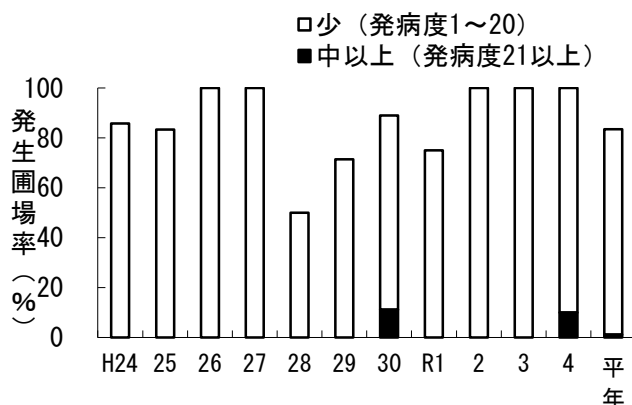


図2 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（9月下旬）

#### 4 ネギコガ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年36.3%）で、平年並であった（図3）。

(2) 時期別の被害葉率は、平年よりも低く推移している（図4）。

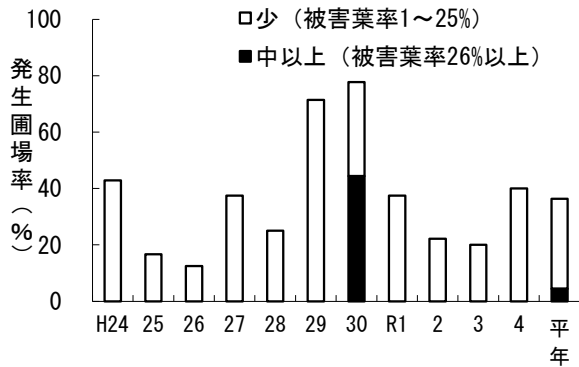


図3 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

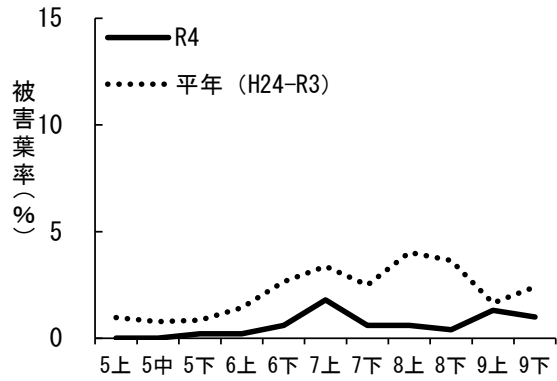


図4 ネギコガ被害葉率の時期別推移

#### 5 ネギハモグリバエ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年74.7%）で、被害程度中以上の圃場率は10.0%（平年37.4%）で、ともに平年より低かった（図5）。

(2) 時期別の被害度は、平年よりも低く推移している（図6）。

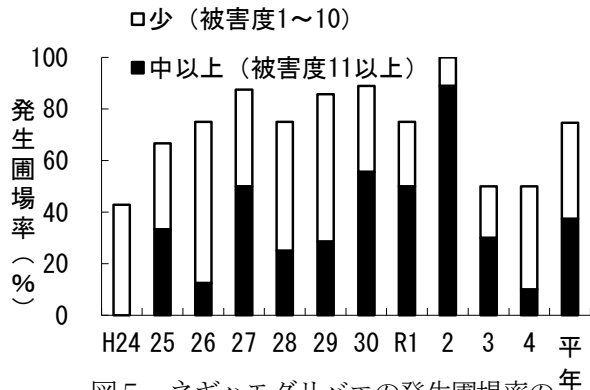


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

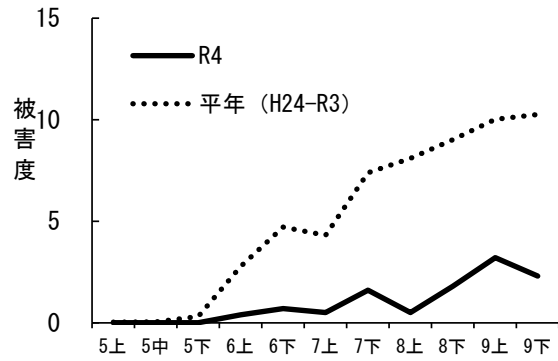


図6 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = (4A + 3B + 2C + D) \times 100 / (\text{調査株数} \times 4)$$

※A：被害程度甚、B：多、C：中、D：少の株数

#### 6 ネギアザミウマ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年86.3%）で、程度中以上の圃場率は20.0%（平年50.8%）で、ともに平年より低かった（図7）。

(2) 時期別の被害度は、9月上旬以降は平年よりも低く推移している（図8）。

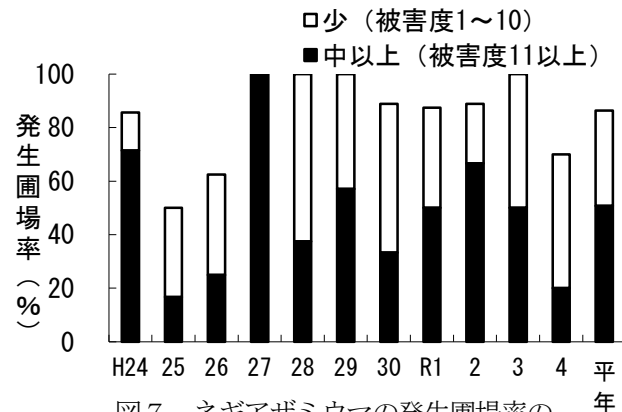


図7 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

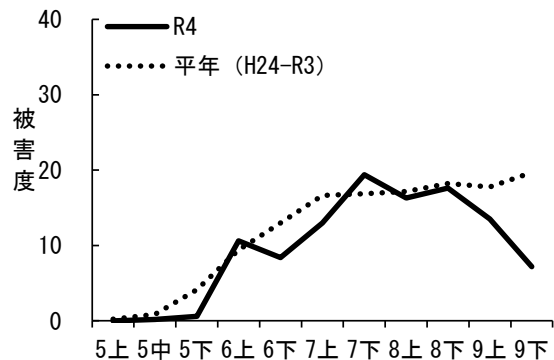


図8 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

# 農作物病害虫発生現況情報（9月）りんどう編

## 1 葉枯病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は25.0%（平年29.3%）、採花部での発生圃場率は8.3%（平年11.5%）で、ともに平年よりやや低かった（図1）。

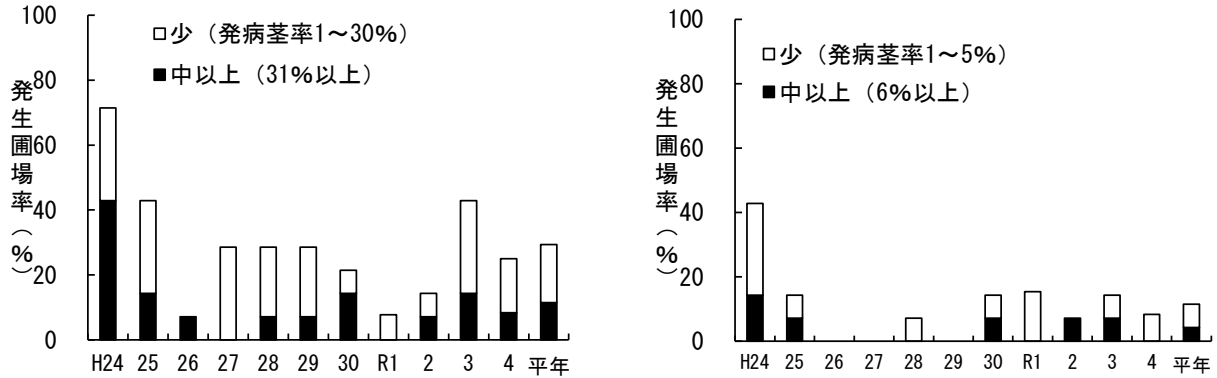


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、9月中旬）

## 2 褐斑病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は25.0%（平年6.4%）で、平年より高かった（図2）。

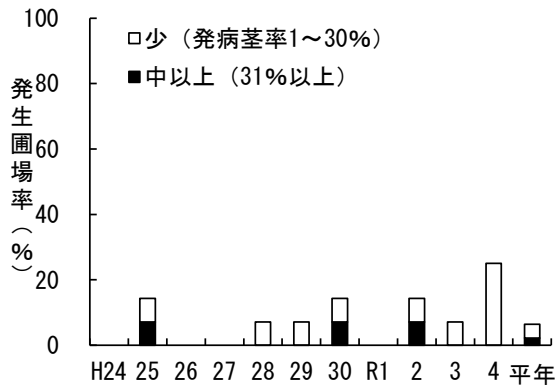


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

## 3 花腐菌核病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年5.1%、図3）。

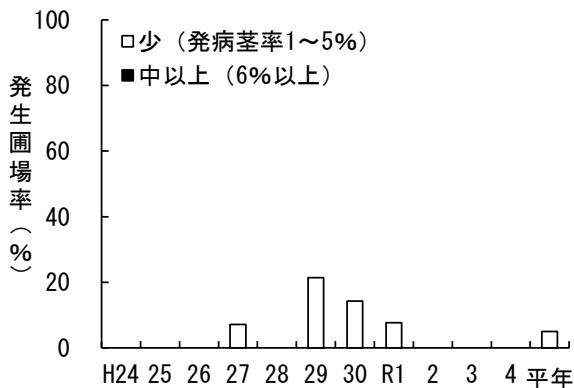


図3 花腐菌核病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

#### 4 ハダニ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は33.3%（平年28.7%）で平年よりやや高く、寄生葉率は一部で程度の高い圃場がみられた（図4）。

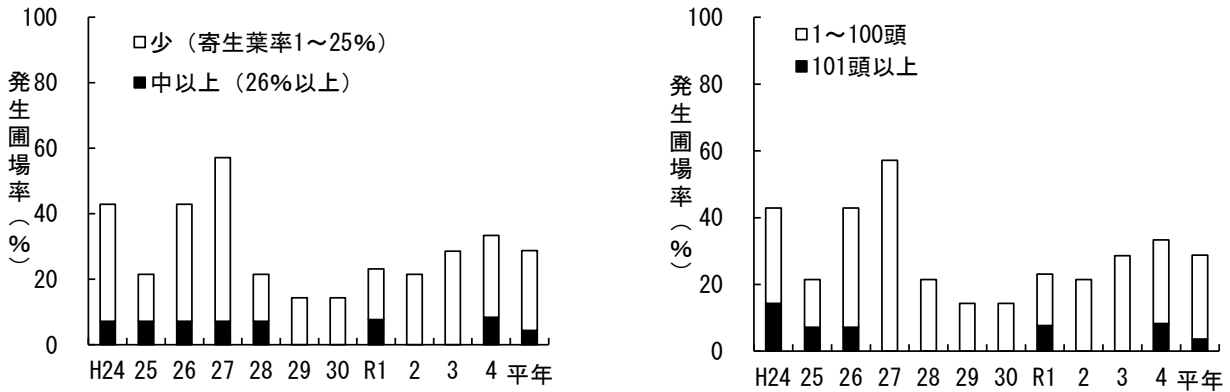


図4 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉、9月中旬）

#### 5 リンドウホソハマキ

(1) 9月中旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は16.7%（平年43.6%）で、平年より低かった。生長部および茎部の被害は確認されなかった（平年20.1%、図5）。

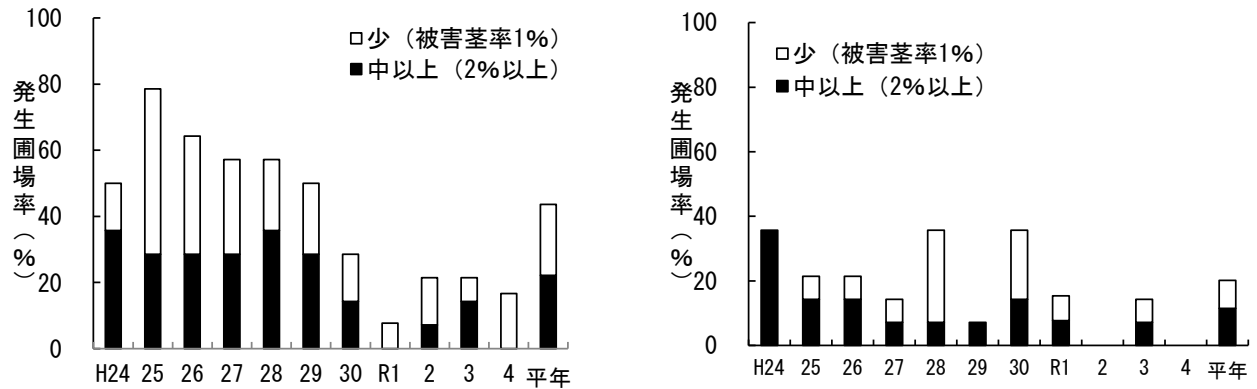


図5 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、9月中旬）

#### 6 アザミウマ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は35.7%（平年49.5%）で、平年よりやや低かった（図6）。

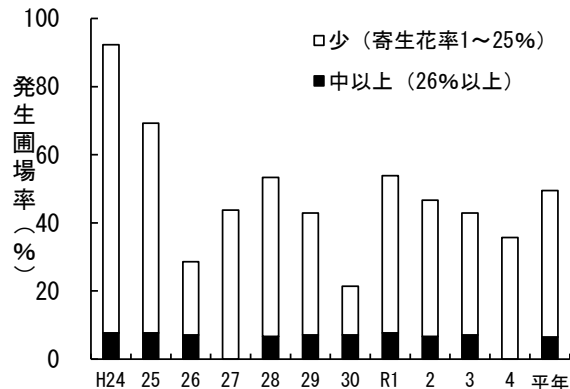


図6 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

#### 7 アブラムシ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。